

第3学年 ESD 総合的な学習の時間 学習指導案

平成27年12月17日(木)

1 単 元 「人にやさしい町づくり」のために自分たちにできることをしよう(本時 2/16)

2 本時の目標

- (1) 「人にやさしい町づくり」をすすめるために、高齢者・幼児・障がい者に喜ばれるようなボランティア活動について進んで考え、みんなで取り組もうとする意欲を高めることができる。
- (2) お互いの考えを尊重しながら、話し合い活動に積極的に参加することができる。

3 準備・資料

- ・教師 前時をまとめた紙(黒板用)、チャート(グループ用・黒板用)、付箋、短冊用紙(黒板用)、
- ・児童 前時に使用したワークシート

4 指導過程

段階 時間	学習活動	・留意点 [支 援] 評 価
つかむ 5分	1 前時の学習内容を振り返り、本時のめあてを確認する。 [思い・願い] ・高齢者： 段差をなくしてほしい 元気に生活したい ・幼児： 一緒に遊んでほしい 一人でできることを増やしたい ・障がい者： スロープを増やしてほしい 手話や点字を分かってほしい 2 本時の学習課題を知る。	・ 高齢者・幼児・障がい者の思いや願いを想起させる。 [支] 前時に話し合ったことをまとめた紙を掲示して、視覚的に分かりやすくする。 ・ 本時に何をするのかの意識づけと活動の心構えをもたせるように場の雰囲気を作る。 ・ 本時のめあてを全員で復唱させる。
	町の人たちの思いや願いをもとに、自分たちでできることを話し合おう	
考える 10分	3 町の人を喜ばせるために、自分たちで取り組んでみたいボランティア活動を付箋に書く。(個人) ・高齢者：お年寄りに肩たたきやマッサージをしたい お年寄りに、八木節やカッポレを踊ってみせたり、お話をしたりしたい。 ・幼 児：遊び相手になる。(遊具の高い所をだっこする。) 遊び道具を作って一緒に遊びたい。 ・障がい者：学校で、手話や点字・ガイドヘルプ体験教室を開いて、多くの人に教えたい。 募金活動をしたい。	・ 幼児から高齢者、障がい者を喜ばせるための身近な地域でできる活動を各自考えさせる。 [支] 活動が思いつかない児童には、「ともに生きる」P 32・33を参照してもよいことを伝える。 ・ 挙手した児童を指名し、発表させる。 ・ 友達の考えを聞いて、同意する場合は、付箋に書いてもよいことを伝える。
		付箋を書きながら、自分なりの考えをもつことができる。【付箋の記述内容】
深める 15分	4 町の人を喜ばせるために、自分たちで取り組んでみたいボランティア活動について話し合う。 (1) グループでXチャートを作成する。 (2) 完成したXチャートを見て、グループで話し合って意見をまとめる。 ・ 考えを分類する。 ・ 検討する。 ・ 考えをまとめる。	・ 個人で対象ごとに分けて、Xチャートに付箋を貼らせる。 ・ 同じ意見は、重ね合わせて貼らせる。 ・ 対象が複数の場合は、境界線上に貼らせる。 ・ 必要に応じて、似た意見をまとめたりする等、考えの整理の仕方を伝える。 [支] 考えの言い方が分からない児童には、対話を通して、話し方をアドバイスし、発言の仕方を伝える。 ・ 積極的に話し合いに参加し、友達の発言に耳を傾け、共感的に受け止めさせる。 ・ Xチャートを用いて、グループごとに考えを整理させる。 ・ 考えがまとまったら、短冊用紙にマジックでグループの意見を書かせる。
		建設的な話し合いをしながら、グループの考えを共有化することができる。【話し合いの様子】
高め合う 13分	(3) グループごとに発表する。[9班] ・ グループの代表者が、黒板のXチャートに整理して貼付し、グループで取り組んでみたい活動を紹介する。 5 他のグループの発表を聞いた上で、再度どんな活動をどんなふうに取り組んでいきたいかを考える。(学級)	・ グループごとに取り組んでみたい活動について短冊用紙を貼りながら、発表させる。
		自分にもできそうなことかどうかを考え、友達同士気持ちを高め合うことができる。(発表・態度)
		・ 他のグループの紹介を聞いた上で、再度「どのようにして取り組むとよいか」に視点を変えて、全体で確認し合う。
		グループでまとめた意見を検討しながら、全体の考えを共有化することができる。【話し合いの様子】

ま と め る 2 分	6 次時に、学年集会を開いて、他の学級の意見も聞き、具体的にどんなボランティア活動に取り組むか決めることを知る。 7 本時の内容をふり返り、感想を発表する。	・ 自分たちで話し合ったことが、実現に近づいていくことを感じ、取り組む気持ちを高めさせたい。
--------------------------------	---	--

5 反省

6 高評